

## 大会宣言

# 平和と民主主義を守り、 子どもと先生の笑顔あふれる学校をつくりましょう！

へいわってなにか。ぼくは、かんがえたよ。ねこがわらう。おなかがいっぱい。やぎがのんびりあるいてる。ちょうめいそうがたくさんはえ、よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。へいわっていいね。へいわってうれしいね。みんなのころから、へいわがうまれるんだね。ああ、ぼくは、へいわなときにうまれてよかったよ。これからも、ずっとへいわがつづくように、ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。（「へいわってすてきだね」）

ロシアによるウクライナ侵略から1年あまりが経過しました。同時にアジアでの軍事的緊張をあおる動きも高まる中で、全教広島は被爆地ヒロシマから「教え子を再び戦場に送るな」の決意とともに、世界の戦争終結と平和実現を求める取り組みを旺盛に展開してきました。

3年あまりにわたるコロナ禍は、社会はもちろんのこと、子どもたちの学びと生活、そして教職員の教育活動に大きな影響を及ぼしました。加えて、諸物価高騰による家計への打撃も子どもたちの健康と成長に重大な影響を与えています。

文科省は、「資質・能力」論に貫かれた改訂学習指導要領によって、「人格の完成」をめざす教育から、財界・産業界が求める「グローバル人材」育成の教育に変質させようとしています。しかし、学校現場に急速に押し付けられたデジタル化の波は、教育予算増による少人数学級前進や教職員定数改善に背を向けているため、大きなひずみを生みだしています。

文科省が公表した教職員勤務実態調査結果では、時間外勤務が45時間/月を超える先生が、中学校77.1%、小学校64.5%と、依然として深刻な実態にあることが判明しました。「教育に穴があく」事態がつづき、「新学期、全国の学校で教員不足1500人。担任不在で自習も」との見出しが新聞紙面に踊ります。

全教の全国調査では、長時間過密労働解消策として「教職員の数を増やす(89.7%)」が断然トップであることがわかりました。部活動についても放置できない状況です。「給特法」を改正して時間外勤務をなくす取り組みを急ぐことが求められています。

全教広島第38回定期大会は、困難な中でも子どもや地域とともに歩む仲間の姿と全教広島の存在価値をあらためて浮き彫りにしました。

今こそ私たちは、すべての子どもたちの成長と発達を保障する学びを大切に、憲法と子どもの権利条約にもとづいた教育を実現する取り組みをすすめましょう。

教職員の長時間過密労働を解消し、だれもがいきいきと働きつづけられる学校・職場づくりを行うため、仲間を増やし、職場を基礎に力を合わせていきましょう。

「教え子を再び戦場へ送らない」決意を胸に、平和と民主主義を守り、子どもと先生の笑顔あふれる学校をつくりましょう。

右、宣言します。

2023年5月20日 全教広島第38回定期大会